

表 密貿易の場所での密貿易の状況（要旨）

番号	地名	現在	状況
1	長崎	長崎県長崎市	南口の不正物が入り込むのは、落札荷物に、不正物をまぜて、手板荷物となり、大坂表へ出すものであり、毎度あるので、引き続き、南口から不正物が入り込むことが止まない。唐船が湊内で繋いでいる時に、密売することもあるが、格別大騒ぎのことではないと聞いている。このような筋で立ち障りのある者はおよそ名前、住所も知られているのであれば、何時も手当が行き届くと言うべきか。
2	田助浦	長崎県平戸市	ここは、南口船や長崎、そのほかの諸廻船が風待ちをするには便利な湊で、諸船の入り込みが多く、繁昌しているので、不正物等の取り扱う者が多く、毎度長崎の役人が、ここで取り押さえていることが度々ある。ここに通船し仕分けしないのは、不正物等を積み載せた船で、壱岐沖へ乗り回す。風待ち等する時は、ここは壱岐の勝本とつながっている
3	勝本	長崎県壱岐市	ここは、田助浦、呼子浦あたりで、長崎の役人が不正物を取り押さえていると伝わっている時は、残らずここへ乗り回し、風待ちなどを行っている。当然南口船が多くいる。また対馬の渡海湊としていい場所であるので、諸船の入り込みが多く、土地が特に、南口船が平戸・田助浦、またはここで風待ちをする時にも、不正物の商売をすることが毎度ある場所柄と聞いている。
4	呼子浦	佐賀県唐津市	ここは、田助浦、呼子浦あたりで、長崎の役人が不正物を取り押さえていると伝わっている時は、残らずここへ乗り回し、風待ちなどを行っている。当然南口船が多くいる。また対馬の渡海湊としていい場所であるので、諸船の入り込みが多く、土地が特に、南口船が平戸・田助浦、またはここで風待ちをする時にも、不正物の商売をすることが毎度ある場所柄と聞いている。
5	若津	福岡県大川市	長崎より出された不正物、薩摩より出された不正物は、いずれもここへ積み回し、九州の所々へ売りさばくことが毎度ある。不正物を以前から取り扱うことは手慣れている。人気の場所である。
6	下関	山口県下関市	ここは特に不正物の取り扱いが大きな場所ということで、諸国の船、諸国の売人が多く入り込み、多くここで商売をしている。ここから諸方へ積み回す場所である。九州・四国の咽喉の場所柄である。ここでは取り締まらない状況であると聞いている。
7	細島	宮崎県日向市	中国・九州の船が下口（下関か）から下る時に、この湊へ繋ぐ。また、南口船が四国の裏手沖を通過して、大坂・紀州辺へ乗り回しているが、その船が多くここで風待ちをしている。春夏は少なく、冬に特に南口より乗り回すのが便利であるので、入津する
8	鶴崎	大分県大分市	ここは海陸とも入込が多く、特に、肥後熊本から薩摩の荷物が陸路で来る分は、多くはここまで運ばれて、船積みされ、大坂や中国の尾道あたり、または四国へも積み回されるのがいつものことなので、慣れている状況である。
9	佐賀関	大分県大分市	以前から不正物等を取り扱っている者が多く入り込む場所であると聞いている。
10	尾道	広島県尾道市	不正物等を取り扱っている者が多くいる状況であると聞いている。
11	紀州地方（大坂）	和歌山県（大阪府大阪市）	紀州地方の所々へ、薩摩の種子島・仕出（志布志か）等の船が、四国裏手沖を乗り回して、紀州地方と大坂へ直に来る。大坂へ来る分は、石貝船という船を雇って、不正物を積み替え、大坂問屋に直に荷揚げしている。この船は先年より川口上荷船を雇わず、直に問屋の裏手へ漕ぎ付け、荷揚げをしている。諸船とも不正物等の類は残らずそのようにすると便利なので、いずれもそのような状況
12	新潟	新潟県新潟市	ここは南口船が1年に500～600石から700～800石積の船が4,5艘、毎年不正物を積み込んで、手広く売買している。ここでは手板等の意味もなく、荷改めをする者もないので、勝手に取り扱っている。また、帰りの船は抜俵物を買って、積み帰って